廿日市市
令和８年１０月
Vol.３３

地域学校協働活動 & コミュニティ・スクール だより

今回は、９月 16 日・10 月 15 日に開催した「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動第２回情報交換会」の様子をお知らせします。

令和８年度廿日市市コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動第２回情報交換会

９月 16 日（水）と 10 月 15 日（木）にコミュニティ・スクール及び地域学校協働活動情報交換会を開催しました。この会には、各学校運営協議会会長と小中学校職員(校長、教頭、主幹教諭又は教諭)を中心にお集まりいただき、各校で開催した熟議について情報交換を行いました。

はじめに、「熟議のテーマを考えるなど、熟議に至るまでに学校運営協議会で行ったこと」その後に「熟議を生かしていくために」というテーマで、事例発表と自校の学校運営協議会の共通理解と他校区との情報交換を行いました。

情報交換①

テーマ：「熟議のテーマを考えるなど、熟議に至るまでに学校運営協議会で行ったこと」

平良小学校　山本　竜太　主幹教諭が、「熟議に至るまで」についての取組を発表しました。

平良小学校では、昨年度「子ども達が 10 年後の社会で豊かな人生を送るために必要な力は？」というテーマで、熟議を行いました。

その結果、他者と上手に関わる力、失敗を恐れずチャレンジする力、自分も相手も大切にする力、自分で考えて行動する力、幸せを感じる力をつけていこうという結果になりました。



その後の学校運営協議会で、熟議では立場を超えて建設的な話し合いができており、参加者の満足度も高いという意見がありました。しかし、「熟議がその場限りのものになってしまう」、「学校運営協議会が学校評価で時間切れになる」という意見も出されました。

そこで、今年度は熟議の前に第２回学校運営協議会を６月 25 日に開催し、指示待ちではなく、自分自身で課題を解決する力をつけるために、熟議のテーマについて学校運営協議会委員と管理職で協議をしました。

８月 26 日の熟議には、学校運営協議会と地域学校協働本部のメンバーと保護者、教職員、キャリアスタートウィークに来ていた七尾中学校の生徒が参加し、「自分で考え、行動する子ども達が育っていくためには」というテーマで、熟議を行いました。次に、「自分で考え、行動する子どもたちが育っていくために、自分の立場でできることは？」ということについて協議を行いました。

熟議の結果、子どもたちを「信じて任せる、見守る、待つ」大人の姿勢が大切である。そのために「場の設定、環境づくり」が必要であり、子どもも大人も「ゆとり、余裕、安心感」を持って活動できるようにすると良いとまとまりました。





参加者の感想

教職員	・学校と地域を結びつけること、教職員が地域の方に関心と感謝をもつことが必要です。今日のように共通のテーマで話し合うことで、その大きな一歩になったと思います。 ・学校では、失敗しても大丈夫な雰囲気をつくる、ほめる、見守る、すぐに教えない、ができると話したところ、地域の方が「それは家庭でも一緒だね。地域でもできるね！」と言ってくださり、立場は違っても、することやできること、ゴールは同じところがたくさんあるのに改めて気付くことができました。
保護者	・いろいろな意見を聞かせていただき、考えが広がった。大きくは共通のイメージで子供に向き合っているので、学校、地域、家庭が３本の矢でしっかり協力して子供の成長ををともに喜びたいと思いました。 ・先生たちが日ごろからどのように動かれているのか、今日のように直接話すことでよくわかりました。雑談も含めていろいろな話をすることで、先生たちの想いや考えを聞くことができました。もっと自然に、地域と学校が対話できる空気を作れたらいいなというのが正直な気持ちです。
地域等	・自分で考え、行動するために、学校、家庭、地域でいっしょになって子供たち一人一人の力を高める活動を実行していくなど、大切なことだと思いました。 ・先生の立場、保護者の立場、地域の人の立場など、立場によって考え方の違いや視点の異なる点などたくさんの気付きをもらいました。子供の学びをともに支えていきたいです。

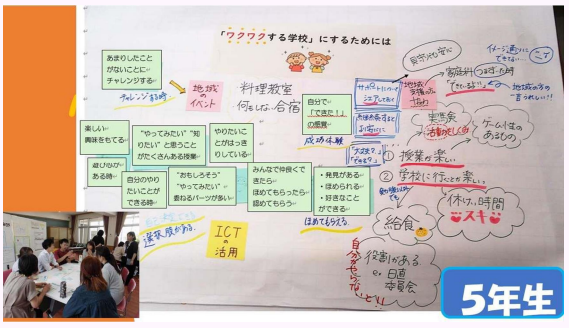
これから、学校運営協議会や地域学校協働本部で「ともに」をキーワードに、アイデアを出し合い、取組や活動を進めていきます。

その後、学校区が違うグループに移動し、それぞれの学校区の取組について情報交換しました。そして、各学校区のグループに戻り、交流の報告を行いました。

情報交換②

テーマ：「熟議を生かしていくために」

はじめに、**宮内小学校　白根　悦子　主幹教諭**が、「熟議を生かしていくために～『ワクワクする学校』にするためには～」というテーマで実践発表を行いました。



宮内小学校では、昨年度の熟議を受けて、今年度は「学校と地域とで一緒に何かできるといいな」という思いを校長と学校運営協議会のメンバーで共有しました。そこで、昨年度から今年度へとつなげ、キーワードを「ワクワク」とし、学校と地域で一緒に考え、話し合い、実行する。その時に児童を中心に考えることを大切に熟議を行い、出てきたアイデアを絞ったり、深めたりするために、今年度は熟議の後に、さらに学校運営協議会委員で意見の整理を行いました。

参加者の感想

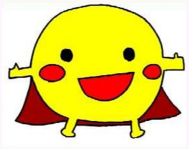
地域	先生方のワクワクすることへの発想力に感心しました。お話を伺っていて、こちらがワクワクしました。話題に上がったことが実現できると、子どもたちもとてもワクワク、楽しい学校になると思います！ ワクワクするというテーマは面白かったのですが（略）授業支援の枠を出た話にはなりませんでした。授業の中にとどまらず、「学校を中心にした広域の地域の中」で、学校教育と社会教育を横断した広い話がしたかったです。それには時間が足りませんでした。
教職員	地域の方が宮内小の子ども達のために、熱い気持ちをとって考えて動いてくださっていることに改めて感謝の気持ちを持ちました。本当にありがたいことだと思います。 地域の方とざっくばらんに話ができて楽しかったです。それぞれ体験してきた学校生活の思い出を「ワクワク」に置き換え、みなさんで共有しました。結局「ワクワク」は子どもが学びたい時に自由に取り組める姿なのではないかと思いました。目を輝かせ、生き生きと学ぶ姿を学校でも実現できたらいいなと思いました。

熟議の後に「ワクワクする学校づくり」の主要キーワードを整理し、取組や活動を計画しています。



1．主体性・自己決定・チャレンジ
- 自分で決めて行動する
  やりたいこと・テーマを自分で選び、計画や企画から自分たちで行う。
- 挑戦と試行錯誤
  やったことがないことへの挑戦、失敗しても大丈夫な環境作り、何度も繰り返す機会。
- 選択肢と委ね（ゆだね）
  子供主体の授業・委員会運営や、委ねる要素（遊び心や自由度）を増やす。

2．達成感・自己有用感
- 成功体験と成長の可視化
  「できた！」という感覚、練習して上手くなるプロセス、結果が目に見える化。
- 認め合いと表現の場
  発表や表現の機会、周り（友達・先生・地域）から見てもらう・褒めてもらうこと。
- 役割と・貢献
  日直・委員会などの役割を持ち、感謝し合う・承認し合う関係性。



宮内小学校区
地域学校協働本部
イメージキャラクター
スマイルン

3．体験・自然・リアルな学び
- 校外・自然体験
  水遊び、ビオトープでの生き物とのふれあい、山・川・海などの豊かな自然の活用。
- 非日常のイベント
  プラネタリウム、ロケット、そうめん流し、やきいも、バーベキュー、お泊まり会、お仕事体験など。
- 探求・ゲーム要素
  自ら答えを発見する授業、ICT 活用、ゲーム要素を取り入れた楽しい授業。

4．安心感・居場所・協働

・安心できるベース
　失敗しても大丈夫な雰囲気、安心して活動・挑戦できる居場所づくり
・友達や先生とのつながり
　仲間と協力して何かをやり遂げること、他愛のないおしゃべりや学年を超えた交流。

5．地域・大人との連携・共創

・地域とともに歩む学校
　地域の祭り・行事への参加や復活、市民センターの活用、地域の方との交流（ゲストティーチャーや見守り）
・学校が地域の集まる場所に
　みんなが集まる場所としての学校、PTCA 等の活動
・子どもも大人も楽しむ
　保護者や地域の大人が楽しんでいる姿を見せる、みんなで見守る体制。

熟議を受けて、宮内小学校は、4つの新たな実践に挑戦します！！

1つ目：ロング休憩(ゆとりある時間の確保)
いつもより長い昼休憩

・月に１回程度実施。日程を設定する。
(地域や委員会でイベントを企画する案もあり)

【効果】
　時間に追われずに友達とじっくり遊んだり、主体的な関わりやコミュニケーションを深めたりする余白を生むことができる。



2つ目：学校から宿題を出さない日の設定
自己決定と自由時間の確保

・出された宿題ではなく、自分でやる課題を決めて取り組む。曜日を設定する予定。

【効果】
　自分で過ごし方を決めることで自主性が育つほか、余暇の時間を使って家族との時間や地域活動、自分の趣味に没頭できる。



3つ目：体験的イベントの実施(ワクワクと成功体験)
8月に広島で実施されたパルクール体験を　宮内小学校で！

・トップレベルのパフォーマンスを体感
・パルクール体験
・振り返りワークショップ
　→「できた！」のプロセスをしっかり言葉に落とし込み、これからの夢や目標への行動につなげる。

【効果】
　日常の授業では得られない五感を使った「やってみたい」を刺激し、仲間と協力してやり遂げる達成感や自己有用感を育む。



4つ目：地域イベントの紹介(地域連携と居場所づくり)
チラシを作成し、児童に直接手渡し

・「何もしない合宿」
・「みやうち冒険あそび場」
・その他地域体験イベント

【効果】
　学校と地域の垣根を低くし、子どもたちが地域の中で「自分の居場所」や「認められる場」を広げるきっかけになる。



　宮内小学校では、この４つの取組をそれぞれの担当を決め、学校と地域が連携・協働し、少しずつできることから活動に移しています。

　発表の後、それぞれの学校区ごとに熟議を今後の取組や活動にどう生かしていくか協議しました。その後、学校区が違うグループに移動し、それぞれの学校区の実践を交流しました。そして、各学校区に戻り、他の地域の活動や実践の報告を行い、自校の活動や取組に生かせることを協議しました。

　地域の特性や強みを生かし、熟議で話し合われたアイディアを継続的に取り組んでいくことが大切です。各学校区の熟議で協議されたことが、廿日市市の未来を創る子どもたちや学校、地域の活動の充実につながることを期待しています。

廿日市市教育委員会生涯学習課
〒738-8501　廿日市市下平良一丁目 11 番 1 号
TEL(0829)30-9203　FAX(0829)32-5163
市ホームページ